

2020年12月に策定された洋上風力産業ビジョン（第1次）では、洋上風力発電は国民負担の低減効果や経済波及効果が大きいこと等から、2030年度までに1,000万kW、2040年度までに浮体式を含む3,000万kW～4,500万kWの案件を形成する目標が設定されており、北海道では全国の1/3にも相当する955～1,465万kWの導入目標が示されています。

現在、北海道沿岸では日本海側を中心に洋上風力発電施設の検討が進められています。今後太平洋側やオホーツク海側でも導入の可能性が考えられます。しかしオホーツク海で洋上風力発電施設を建設する際には、冬季の流氷等の作用により発生する氷荷重を考慮する必要があります。

この度、氷荷重の算定に必要な北海道オホーツク海沿岸の海氷の諸元等を整理し、着床式洋上風力発電施設の建設を検討する際の参考資料を作成しました。

本書が、北海道沿岸の洋上風力発電施設を計画・設計される技術者の方々に広く活用されることを願っております。

[氷海域における着床式の洋上風力発電設備に作用する氷荷重の算定に関する参考資料 \(PDF\)](#)